

# 西播の蝶分布資料(1)

岩村 巖・中谷 貴寿

Some notes on the Butterfly Fauna of Southwest Hyogo-pref. (1)

by IWAO IWAMURA & TAKATOSHI NAKATANI

筆者らは数年前から西播における蝶類の分布に就いて探究を志してきたが、なにぶんにも交通不便な地ばかりで我々の微力を以つてはとて解明し得るものではない。従つて今までに得た資料は全く断片的なものにしか過ぎないが、中には分布上興味深いものも二、三含まれているので、とりあえずここに姫路市近傍のもののみをまとめておく。

ミヤマカラスアゲハ

*Papilio maackii tutanus* FENTON

本種は県下に於てはかなりの深山以外からは、あまり記録もなく、一般に稀な種である。姫路付近では雪彦山にかなり産することが確かめられているが、昨年の姫路市展覧会に書写山産の次の1♀が出品されていた。

1♀：1959—Aug. 6 (山陽中学生出品)

1♀目撃者 1958—Aug. 12 (岩村)

書写山のような標高僅か 370m前後というような所から記録された事は注目に値する。これは書写山に今なお深山に劣らぬ樹木がよく保存されているという特殊な事情によるものであろう。同地における本種の土着はまず疑いないところである。なお、書写山においてルーミスジミが得られたという記録があるが、これに就いては既に九大の白水隆氏も述べておられる如く、多分に疑問があり、筆者らの経験からもまず産する可能性はない。

ナガサキアゲハ

*Papilio memnon thunbergii* VON STEBOLD

本種も次の1♂が展覧会に出品されていた。

1♂：1959—Aug. 19 姫路市広畑(広畑中学出品)

西播からは初めての記録である。標本は極めて新鮮な個体であつた。今の所、明らかに迷蝶として扱うべきものである。

ギフチョウ *Tühdorfia japonica* LEECH

食草カンアオイ類の分布と共に、恐らく各地に産するものと思われ、これが西播にも分布するであろうことは大方の推測されるところであつた。そして1955年の秋に姫路市の展覧会が催された時、明らかに姫路市より採集された1♂が出品されていた。これのデータは中谷がノートにひかえていたのであるが、不覚にもこのノートを紛失してしまい、残念に思つていた所、偶然にもこの標本が姫路動物園内に保管されている事を聞き及び、早速

調べにいつたが、既に当時のラベルはなくなつてしまつていた。それから例年催される展覧会に、いつも二〜三頭の本種の出品されているのを見るが、いずれも明らかに標本商から入手されたものである。

西播においては相生市矢野町が唯一の確実な産地である(八木;“相生市付近の蝶類一覽”,1960)。この場所は筆者らがカンアオイの群生地として、かねてから目をつけていた所で、本年春にも訪れながら時期的にまずく不首尾に終つていただけにこのニュースは全く快事であつた。

ホシミスジ *Paraneptis pryeri* BUTLER

本種の西播における分布については古くから知られており、福田(1902)や井口(1910)の報告があるが、その後本種について述べた報告は全くない。ここに筆者らの知り得た最近の記録をまとめておく。

1♂：1956—July. 30 姫路市広峯山(大西陸子)

1♂：1958—June. 8 姫路市八代

1♀：1959—July. 30 書写山(室田和夫)

1♂：1960—Aug. 15 姫路市花田町上原田

(沢波 溝)

1♂1♀：1960—Aug. 16 姫路市八代(岩村)

2♂1♀：1960—Sep. 9 書写山(岩村)

1頭目撃：1959—June. 26 姫路市新在家

神大姫路分校々庭(中谷)

産地ではいずれもコムスジと混棲するが、その個体数はコムスジに比して著しく少なく、季節によつて異なるが、大体10：1位の割合である。本種の発生回数には一般には年2回、寒冷地で1回と信じられている。しかし関西において第3化の成虫が認められるのではないかという疑問は既に1955年に若林、田中氏等により出されている。当地においては個体数の少ない関係から第3化の発生を推定するのは困難であるが、その可能性は多分にある訳で、この点は今後の観察に待ちたい。

扱て、関西産のホシミスジと信州産のそれとの間に斑紋上の差異の認められる事も前記若林氏等により報告されており、一般には明瞭に区別できるものである。この点はその両分布地の間に空白地帯のあることから興味深いことである。

スミナガン

*Dichorragia nesimachus nesiotus* FRUHSTORFER

1♀：1960—Aug. 姫路市網干（網干中学出品）

上記個体は、その標本の鮮度、展翅の様子等からして実際採集したものには違いないが、果して網干のような海岸に近い平地に産するかどうか疑問である。岩村はその付近については度々歩いているが、まだ目撃したこともなく産する可能性はない。おそらく深山からの迷蝶か、もしくはラベルの誤りと思われる。

ゴイシジミ *Taraka hamada* DRUCE

1♀：1960—June. 16 姫路市大野峠（岩村）

西播においては極めて稀なもので産地も著しく局限される。上記地点は幼虫の食するタケノアブラムシの寄生したササやタケが多数あり、季節によつてはかなり多産するのではないかと思われるが、それ以後当地へ採集に出かけていないので何ともいえない。

シルビアンジミ

*Zizina otis emelina* DEL' ORZA

本種は既に各地に多産地が知られており、中谷（兵庫県におけるシルビアンジミの新産地”1960）は1959年末までの県下の産地をまとめておいた。姫路付近では既に発表した以外に次の記録がある。

21♂♂、16♀♀：1959—Sept. 6

揖保川堤防（岩村）

2♂♂、3♀♀：1959—Sept. 13

夢前川書写山付近（岩村）

4♂♂、1♀：1959—Sept. 6 広畑（岩村）

7♂♂、5♀♀：1960 Aug. 16

市川堤防下流（岩村）

いずれも産地は局限されるが個体数は多く、特に揖保川流域には多い。いずれもミヤコグサの群生地で、それを食草にしているが、赤穂市尾崎辺りではコマツナギが

主食草になつている。

キマダラモドキ *Kirinia epaminondas* STAUDINGER

1♂：1959—Aug. 21 姫路市船津（神南中学出品）

2♂♂：1960—Aug. 2 姫路市船津多田村（中谷）

1959年度の姫路市展覧会上記1♂の出品されているのを見た時、正直なところ、我々は、その記録の真实性を疑わずにはおれなかつた。しかし、データが本種の発生期にしては少し遅すぎる8月21日となつているにしては標本が割に完全である以外、その標本の出品を疑うべき何らの根拠もなかつたので、一応調査してみなければと思い、更に詳しい採集地を知りたかつたのであるが、遂に関係者との連絡はとれずに終つた。そして本年8月2日、中谷は船津一帯を探索の結果、2頭の採集に成功更に付近を探したが、それ以上は見つからなかつた。採集地は田圃につづく小さな雑木林で、クヌギやコナラが割に多く、1頭はクヌギの幹に止つていた所を、他の1頭は雑木林の縁にある池畔のイネ科の繁みから飛び出した所を採集した。本種の性質からいつて、同地で発生している事は間違いないが、個体数は可成り少ないものである。

本種は県下からは古く井口氏により佐用郡久崎が報告された以外は、山本広一氏の採集になる1♂が同じ久崎から報ぜられて以来20年近く、全く消息を断つていたので、今回、再び西播の一角に、その棲息が確認できたことを慶ぶと共に、その発見の緒となつた上記1♂の採集者、神南中学の学生の労を多としたい。

本種については、更に後日、詳細な調査を行つた後再び報告の予定であるから、ここでは新産地としての報告にとどめる。

〔註〕 上載データ中 \*印は姫路市小中学校夏期理科作品展展示会に出品されていたものである。

発行所 兵庫県生物学会

印刷所 高田印刷紙器工廠

電話神戸⑦代表二六二五番

神戸市長田区西尻池町五丁目一三

会 計 明石市大蔵谷  
 立 明石高等学校  
 計 渋谷久雄  
 (兵庫県生物学会  
 振替口座神戸一七五〇一番)

同 古川博二

神戸市須磨区千歳町一丁目  
 神戸市立千歳小学校

編集兼 室井 綽  
 発行所 兵庫県高等学校

【非売品】

昭和三十六年一月十日 印刷  
 昭和三十六年一月十日 発行